

Dr. 中路の健やか通信 (其の39)

健やか協力隊長 中路 重之

第39回 タバコと健康 (その8)

「❖たばこの経済性：多額な税金でも医療費増加」



1999年、10ヵ月だけ英国の北アイルランドの大学にいた筆者は、たばこの値段を知り驚きました。4ポンドと表示してあったのです。当時、1ポンドが大体200円でしたから、一箱なんと800円！



2017年ごろのマールボロ1箱分の値段をみると、当時の米ドル-日本円換算で、オーストラリアでは2,166円となっています。イギリスでも1,327円、アメリカでも807円と高く、日本はわずか480円です(表)。短期間で喫煙率を下げることでできたイギリスやアメリカには、その覚悟がたばこの値段にあらわれているように思われます。

たばこの価格のかなりの部分が税金であることは良く知られています。約65%が税金です。毎日一箱吸っていたら、1年間で6万円以上を税金に費やすこととなります。なるほど一部の愛煙家が「お国のため、市町村のためにもやめられない」とうそぶくのも分かる気がします。

40年も前の話ですが、青森県のある地域で出稼ぎ者にたばこを送っていました(つまり郵送販売していた)。それだけで、地元数百万円の利益を生み出していたと。ただし、たばこの税率にしても、諸外国と比較すると日本は低いグループに入ります。

国の試算が「健康日本21」で示されていますが、喫煙によって国民医療費の5%が超過医療費としてかさむことや、たばこ関連疾患による労働力損失を含め、「社会全体では少なくとも4兆円以上の損失がある」と述べられています。

ここ数十年でたばこの値段は値上げされ続けてきました。このことが喫煙率の低下に大きな貢献をしてきたことには間違いありません。喫煙者には申し訳ありませんが、筆者は正直もっと値上げして欲しいと考えています。これほど健康に悪いことが分かっているたばこを、どうしてこのまま販売してしまうのでしょうか。誰でも理解できる矛盾なのに・・・くやしいです。

下記はマールボロ1箱の値段(2017年頃)

1. オーストラリア	2,166円	6. アイスランド	1,208円
2. ニューージーランド	1,951円	7. カナダ	1,140円
3. アイルランド	1,437円	8. シンガポール	1,100円
4. ノルウェー	1,417円	9. イスラエル	1,082円
5. イギリス	1,327円	10. フランス	943円

※日本 480円 (今は600円) (日本円に換算)